

提言 新時代のものづくり基盤委員会 [野間口 有委員長]

世界に貢献するものづくりを目指して ～「クオリティチェーン」でつながる新時代のものづくり

新時代のものづくり基盤委員会(野間口 有委員長)は、昨年5月の前提言「世界から信頼されるものづくりを目指して」を踏まえ、ものづくりの基盤として欠かすことができない「品質」について、さらに掘り下げた新提言を3月30日に発表した。

グローバル化やIT化、地球環境問題や少子・高齢化といった経営環境の変化に対応するために、「品質」を狭義の「製品品質」だけでなく、「経営品質」を含めた広義にと

らえることの重要性を提唱。リユースやリサイクルも経て、ものづくりのすべてのプロセスを通じて品質が確保される連鎖を「クオリティチェーン」と名づけ、あるべき品質の確保と新時代のニーズに応える新たな価値の創造を目指す。

そして、この「クオリティチェーン」を企業・消費者・アカデミア・行政が一体となって推し進めることで、世界に貢献する新時代のものづくりと健全な社会の構築を提言する。

I 問題意識

- ・経営を巡る環境激変への対応
- ・新しい時代を迎えた課題のより一層の深刻化
- ・「品質」を巡る事故・事件多発、「当たり前品質」の危機的状況

II 日本経済の再活性化に向けた基本的な考え方

1 「ものづくり」は顧客・社会の求める「価値づくり」

もの = モノ + サービス

「ものづくり」は有形のモノや無形のサービスを問わず顧客・社会の求める「価値づくり」である。

2 日本の「強み」・「特徴」の再認識と、「個」と「Co- (チーム)」の強みの再構築

「Co- (チーム)」の強みの再構築

日本の産業の「強み」の再認識

- ・品質追求の姿勢
- ・チームワークの強さ・現場力・集団力
- ・集約度の高い技術開発力

強みになりうる「特徴」=潜在的な「強み」

- ・長期的な雇用・人材育成・研究開発
- ・優れた技術だが世界標準でない
- ・カスタマイズ化は得意、一般化が不得手

「個」の連携

既に備わっている高度なインフラ

- ・安定したエネルギー供給
- ・発達した物流ネットワーク
- ・バランスのとれた成熟した市場
- ・確かな技術を持つ優秀な企業・メーカーの集積

- ・原点に立ち返り、「強み」・「特徴」を再認識。時代の変化に応じて改善し、活用する
- ・国内の高度なインフラは、価値をつくり出し顧客へと届ける安定したものづくりに欠かせない基盤
- ・本来の「個」の強みを活かすと同時に、広く連携して「Co- (チーム)」の強みを再構築

3 新時代のものづくりに求められる「真に確保すべき品質 (Q)」

$$Q = f(F, C, T, q, Et, Ec, \dots)$$

当然前に備えるべき機能・性能 (F)、コスト (C)、時間的要素 (T)、狭義の品質 (q) に加え、遵法・倫理性 (Et)、省資源・地球環境保全への配慮 (Ec) が必須となった。

Ⅲ 提言：クオリティチェーンでつながる新時代のものづくり

1 経営トップがリードする「クオリティチェーン」でつながるものづくり

- ・ リユース、リサイクルを経て、価値（もの）が完全に消費されるまで続く「ものづくり」の全プロセスで、品質（Q）が確保される連鎖－「クオリティチェーン」－の構築が必要である
- ・ 全ての価値提供者が責任と自覚を持つ「個」であるとともに、「Co-（チーム）」の一員として広く連携することが重要
- ・ 経営トップがクオリティチェーンの役割を理解し、自らが旗振り役となってこの構築に取り組まなければならない

2 クオリティチェーンの役割① 「当たり前品質の確保」

- ・ 「個」は、自らの品質（Q）確保の責任と同時に、クオリティチェーン全体をチェックする責任も果たさねばならない
- ・ 品質トレーサビリティ技術の活用で、品質管理の精度を高めることができ、この技術革新推進が必要
- ・ 経営トップが品質管理や保守・保全の重要性を再認識し、保守・保全体制の再強化を推進
- ・ ものづくりには倫理的要素（Et）が不可欠である事をものづくりに関わる全ての者が認識し早急な立直しが必要
- ・ 「当たり前品質」をクオリティチェーンの中で明示化し再認識して、より強固な連鎖を再構築する

3 クオリティチェーンの役割② 「新時代のニーズに応える新たな価値の創造」

- ・ 価値提供者は連携し、顧客・社会への価値の最大化に向けて、新たな価値創造を続けなければならない
- ・ 顧客起点の発想でクオリティチェーンを活かし、モノ・サービス融合/ソリューション価値など新たな市場を発掘・創造
- ・ 省資源、高循環型社会構築には、リサイクル・最終廃棄まで連携し、新たな価値を創造することが必要
- ・ 制約条件の多い環境技術開発は日本の強みを活かすチャンスであり、更に世界への貢献につながる分野
- ・ 情報が価値となった今、知的財産が競争力向上の更に重要な要素となり、新たな戦略が必要

4 新時代のものづくりに活かす「強み」

- ・ 我が国の製造業・サービス産業のプロセスには共通点があり、クオリティチェーンを通じて、製造業とサービス産業の双方が培ってきた良い方式を応用活用・情報共有し、日本の産業全体の生産性を向上させる

5 ものづくりは人づくり ～人材の育成・活用～

- ・ 「人」の創造性によって新たな価値が作り出され、顧客・社会への価値提供の「人」が欠かせない
→創造性を最大限に発揮させる環境づくり
→働き方の再考 ～多様なライフスタイルに合わせた多様な働き方の再考～

Ⅳ オールジャパンで取り組む「クオリティチェーン」づくり

1 新時代のものづくりを支えるより強い「個」と「公」と「Co-（チーム）」の構築

- ・ 公的セクターも含めた全関係者のサポートとクオリティチェーンの一員である自覚と責任を持ったオールジャパンでの取り組みが必要
- ・ 我が国だからこそできる「Co-（チーム）」の力を発揮する為に、制度見直し・規制緩和の議論にクオリティチェーンの観点を
- ・ 世界中のパートナーと連携を深め、クオリティチェーンの一員であるという認識をグローバルに広め参画者を増やす努力を

2 オールジャパンで取り組む人づくり

- ・ 「人づくり」は様々な要因が複雑に絡み合い、多様な人材育成には社会全体が連携して取り組まなければならない
- ・ 産学官が連携し、クオリティチェーンを人材プラットフォームにする仕組みづくりとその活用

おわりに

【新時代に向けて】：クオリティチェーンを活用した新時代の社会づくり

- ・ 安全・安心に豊かに暮らし、かつ低炭素でエネルギー効率のよい社会の構築にクオリティチェーンを活かす
- ・ クオリティチェーンが人づくりの役割を果たし、賢い市民で構成された健全な社会の構築への寄与を期待
- ・ 価値提供者の自主チェック・市民の厳しいチェックとのダブルチェックが働く健全な社会構築が我々の責務
- ・ クオリティチェーンを通じ民間主導のオープンで健全な新しい市場と社会を示し世界への貢献につなげたい